

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1890600024
法人名	特定非営利活動法人 かっちゃんふあみりーぐるーぷ
事業所名	グループホーム はなみずき
所在地	〒911-0805 福井県勝山市立川町1丁目11-24 (電話) 0778-88-5600

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年3月1日	評価確定日	平成22年4月22日

【情報提供票より】平成 21 年12 月 30 日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,560 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12 月 30 日 現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1	3 名	要介護2		1 名		
要介護3	0 名	要介護4		2 名		
要介護5	0 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	86 歳	最低	85 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニック・デ・ふかや、竹下中央内科医院、歯科医院シラサキ、たけとう病院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは居宅介護支援事業所や通所介護と併設され、玄関では日々の世話を利用者がしている愛犬が迎えてくれます。利用者は毎日の散歩を継続することで日々の変化や季節を肌で感じ、ホームではエレベーターが設置されていますが機能訓練を兼ねて階段を職員と共に昇降することで自然と機能訓練に繋がっています。また、職員は常に利用者を自分の親の立場に置き換えて考え、利用者本位の生活が送れるように支援し、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。看護師の資格を持った職員が3名もいることで日々の健康管理が充実しており、重度化になっても「はなみずき」全体で利用者を支えていこうと取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け、課題であった食事作りを下準備から盛り付けまで利用者と一緒にしています。また、カンファレンスに利用者全員が参加することで本人や他の利用者からの意見を聞くことができ、ケアに繋がっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員は項目ごとに分担し記入してもらったものを管理者がまとめました。外部評価後、職員に配布し見てもらう予定をしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や区長、老人会会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから行事報告などを行い、参加者から意見や要望を聞き、防災時についてなど話し合っています。また、その時の話題に応じて警察署や消防署からも参加してもらっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時や運営推進会議、年に4回開催される家族会に参加があり、直接意見や要望を聞いています。話しやすい雰囲気での問い合わせ、意見などがあれば職員で話し合い改善策を家族に伝えています。また、玄関に意見箱を置いています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し回覧板が回ってきて地域行事に参加しています。ホームの広報紙を区長を通じて地域に配布してもらい、ホームの夏祭りなどに参加がありました。また、市の委託で「子育て支援」として子供を預かったり、認知症講習会を開催するなど地域とのつながりを大切に日々交流しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員と話し合い3つの理念を作成しました。住み慣れた地域の中で暮らし続け利用者や家族、職員の絆を深め利用者本位の生活で暮らせるようにとの思いが込められています。また、理念に基づいた月間目標も作っています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念と月間目標を唱和しています。毎月の職員会議で目標について達成度を話し合い、次月の目標を決めています。家族団欒を目標に自分の親だったら今のケアでいいのか、を考え振り返る機会を持っています。また、誰もが目にする所に理念や毎月の目標を掲げています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し回覧板が回ってきて、地域の行事に参加しています。ホームの広報紙を区長を通じて地域に配布してもらい、ホームの夏祭りなどに参加してもらっています。また、市の委託で「子育て支援」として子供を預ったり、認知症講習会を開くなど地域とのつながりを大切に交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は、職員に項目ごとに振り分け記入してもらい管理者がまとめました。前回の改善点については、食事作りを下準備から盛り付けまで利用者と一緒にしたり、カンファレンスに利用者全員が参加して本人や他の利用者からの意見を聞くことができました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や区長、老人会会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから行事報告などを行い参加者から意見や要望を聞き、防災時についてなどを話し合っています。また、その時の議題に応じて警察署や消防署からも参加してもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは何でも話し合える関係が構築されています。市の委託で「子育て支援」に取り組んだり、介護相談員の受け入れ、市の主催する地域ケア会議に参加して情報交換をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回ホームたよりを発行しています。金銭管理は預かり金対応で毎月の請求書と一緒に出納帳のコピーを送付し、来訪時や入金時に出納書を確認してもらいサインを頂いています。また、何かあればその都度、電話や来訪時に伝え、誕生日にアルバムを作り渡しています。	○	来訪時や電話でその都度、報告されていますが毎月の請求書と一緒にひとことコメントを添えたり、1枚の写真の裏にその時の利用者状況を書き込んで様子を伝えるなどの取り組みを行ってみたいかがでしょうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や運営推進会議、年に4回開催される家族会の中で直接意見や要望を聞いています。意見があまり出ないのが現状ですが、話しやすい雰囲気でも聞いています。意見などがあれば、職員で話し合い改善策を家族に伝えています。また、玄関に意見箱を置いています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者は少なくデイサービスとホームが1つになったのケアができるよう取り組み全職員と利用者は馴染みの関係ができています。管理者は休憩室の設置や時間外労働がないように配慮し、年に3回はストレス発散できるように飲み会を開催しています。新任に職員にはベテラン職員が利用者との間に入り1か月程をかけて馴染んでもらっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協主催の研修等に習熟度に応じて参加しています。参加後は、勉強会を持ち資料を配布し伝達研修や議事録を残し、いつでも見られるようにしています。またホーム内でも研修計画を作成し勉強会をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡会が今年度から定期的に開催され、該当する職員が順次勉強会や交流会に参加しています。また、勝山市内の3か所のグループホームでのネットワーク作りを予定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には見学に来てもらい、家庭訪問や生活状況を知りながらデイサービスやお試して泊りを利用してもらうなど、顔なじみになってからの入居としています。入居後は帰宅願望がある利用者には家族と一時帰宅したり、散歩時には自宅を見に行くなど、家族の協力も得ながら利用者が落ち着いて生活できるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今まで経験してきた洗濯や買い物、料理、園芸、男性の利用者には除雪作業を手伝ってもらうなど、日々生活する中でコミュニケーションを大切に何でも聞きながら支え合う関係を構築しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートやセンター方式を利用して、利用者や家族から希望や要望を聞いています。利用者との会話や表情、行動からも汲み取れるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の会話の中からの情報や利用者や家族の希望や要望を聞きながら一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングで評価し、3か月に1回見直しを行っています。全利用者が参加するカンファレンスを開催し、職員の意見や申し送りノートを参考に見直しに繋げています。また家族がカンファレンスに参加できないときには電話で意見を求め、医師から往診時のコメントを記録に残したものを参考にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない場合の通院介助や理美容の送迎、散歩を兼ねて自宅を見に行くなどその時の状況に応じた支援をしています。また、敬老会の行事やクリスマスのイルミネーションを見に行きたいとの希望があり、要望に応じた支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前、今までのかかりつけ医を継続できることを説明しています。協力医の往診が2週間に1回あり24時間いつでも見てもらえるように連携を取り、訪問歯科は希望があれば往診に来てもらえるようにしています。日々の健康管理は、職員に看護師が3人おり安心して生活を送れるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについてホームから説明し書面を交わしています。今までも看取りをした経験があり、今後職員が安心して支援できるように「看取り介護のマニュアル」を作成しました。、家族の希望があれば医師や家族、職員が協力しながら家族と同じ思いで支援できるように体制を整え取り組んでいます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の行動を理解しながら寄り添い、自分の親であつたらどのような声かけや対応が良いのかを考え支援しています。管理者は「もしあなただったらどうするか」と常に職員に問いかけ、不用意な言動を目にした場合は、その都度注意し、年に1回プライバシーについて勉強会をしています。また、個人情報の記録物は、事務所に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や1日の大まかなスケジュールはありますが起床から睡眠まで利用者のペースやリズムに合わせて希望に応じた生活が過ごせるようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
日					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら、職員が2週間分立て管理者がチェックしています。1階のデイサービスとホームが何品か作り交換しています。下準備から盛り付けまで男性の利用者も一緒に作っています。また、職員も同じテーブルに着き会話を楽しみながら同じ食事を頂いています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階のデイサービスの浴室を利用しての入浴となるため、午後3時頃からの入浴となっています。土曜日以外は毎日準備し、一人ひとりお湯を変えて気持ちよく入れるようにしています。また、疲れた時や外出した時などには足浴をしています。拒否傾向の利用者には、職員は声かけを工夫しタイミングを図りながら気持ちよく入れるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性の利用者には、食事前の「いただきます」のあいさつや食材の買い物荷物持ちなどを役割としています。また、食事の準備や洋裁など楽しみながら役割としたり、今回は中止になりましたが家族同伴で温泉旅行やデイサービスの利用者との触れ合いなど多くの楽しみを持っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や外気浴、1階のデイサービスに自由に出かけています。食材の買い出しや地域のお祭りなどの行事、散歩を兼ねて自宅を見に行くなど日々希望に応じた外出が出来るように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段は転落防止のため施錠していますが、玄関やエレベーターは鍵をかけず自由に入出入りが出来るようにしています。デイサービスの職員と連携を取りながら職員は見守りを怠らず鍵をかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に4回、消防署立ち会いのもとデイサービスと合同で昼夜を想定して避難訓練をしています。運営推進会議で避難訓練の報告をし地域の方に参加を依頼したり、警察からの参加も得て防災時の具体的な協力体制について話し合っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残しています。野菜が多く取れるように職員が献立を立てたものを看護師でもある管理者が確認し、バランスの取れた食事を提供しています。また、刻み食、トロミ食など利用者に応じた食事を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井には木の梁があり、キッチン是对面式で調理の様子がわかり良い香りが食欲をわかせてくれます。家庭的な雰囲気や皆が自然と集まるリビングには千羽鶴や塗り絵が飾られ、廊下には手すりが付けられ安心して歩けるように工夫をされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の扉には利用者の写真とともに名前が掲げられ自室がわかりやすくなっており、希望で鍵を取り付け安心して居室で過ごせるようにしています。ベッドやイス、箆笥、マッサージ機、仏壇など、今まで使っていたものを持ち込んでもらい、ぬいぐるみやカレンダーなどを飾り居心地良く過ごせるようにしています。		